

第3学年 国語科学習指導案

1 単元名 「いにしえの心と語らう」 夏草 - 「おくのほそ道」から

2 指導の立場

(1) 単元・題材について

第3学年「C読むこと」の目標に、「目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して自己を向上させようとする態度を育てる。」とある。本教材においては、「エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。」に重点を置き、松尾芭蕉のものの見方や考え方に対する自分の考えをまとめさせることを言語活動として取り組ませたい。

「2」の前半部分では、栄華を誇った奥州藤原氏の跡地に広がる自然を見て、人間の営みの儚さに涙を流す。どれだけ栄華を誇ってもそれは続かず、消えてしまうことへの悲しみが読み取れる。後半部分では、光堂が人間の営みによって当時の姿をそのまま残していることが記されている。人間の営みの儚さを感じつつも、その人間の努力によって残っている光堂の場面を読み取り、対比することで、それを見た芭蕉の喜びや感動の気持ち、人間の営みの可能性や希望を読み取り、芭蕉の考え方に対する自分の意見をまとめたい。

(2) 生徒の実態について

生徒は、1年生「蓬萊の玉の枝」「七夕に思う」、2年生「扇の的」「仁和寺にある法師」等の学習をし、正しく音読するために、音読カードを使用して、歴史的仮名遣いや区切りに気を付けて音読してきた。また、「好きな人に対する思い」や「七夕に願いを込める」ことなど、人の思いには今も昔も共通する部分が多いことを学んできた。上記の学習では、読み取りを中心に進めてきたため、作者の思いに対する自分の意見を表現する学習は初めての試みである。まずは、内容を正しく理解することで、自分の考えをもつ土台を作り、作者の思いに対して自分の考えをもつことができるようにしたい。

本年度の学力状況調査の結果、……。本時では、自分の立場をはっきりさせること、その理由をはっきりさせることに重点を置き、小集団交流を取り入れることで、相互評価し合いながら、自分の考えをまとめられるようにしたい。

(3) 指導にあたって

本単元の指導にあたっては、古典の文章を繰り返し読むことで、独特なリズムを味わいながら内容を理解し、「2」前半部分と後半部分での芭蕉の思いを対比させたい。今回、生徒は初めて古文の作者に対して自分の思いを表現するため、これまで同様、一つ一つの言葉を大切にしながら、学習を進める。そのために、特に次の3つのことを大切に指導していく。

声を出して音読することで古典の文章のリズムや言葉の響きを味わう。

芭蕉の「旅」への思いや人生観を基にして読み取る。

小集団交流で自分の考えを話し、全体交流では、様々な見方・考え方に気付いたりしながら、自分の考えを広げ、読みを深める。

3 研究主題「できる・分かる喜びを自信に変えて学び続ける生徒の育成」とのかかわり

【研究内容1】 教科間での共通事項・終末の10分の持ち方を工夫する

「西濃の授業、これだけは」に合わせて、終末で約10分を確保し、本時のねらいである「自分の考えの形成」ができたかを生徒自身の目で確認させる。

先の調査結果にもあるように、自分の考えはあるが、どのように書いてよいのか分からない・自信がないという姿が予想される。そこで、個人でまとめを書いた後に、全体交流を行う。自分の考えをうまくまとめられない生徒については、仲間の発言を聞くことで、「なるほど」と気付かせることができる。また、自分の考えをまとめることができた生徒は、仲間の発言を聞いて、新しい見方や考え方に気付き、学習内容をより深く理解させたい。

交流後、仲間の意見を参考にして、自分のまとめに加筆・修正をする。文章として書くことが「できた」、仲間の発言を聞いて、さらに「分かった」と実感させることができると考える。

【研究内容２】 できた・分かったと生徒が実感できる教師の働きかけを工夫する

（１）学ぶ必然を生み出す言語活動の設定と、課題のもたせ方

前半部分では、人間の営みの儚さを感じた芭蕉が時のうつるまで涙したこと、後半部分では、その人間が守り続けてきたものに対して芭蕉が感じたことを十分に捉えさせた上で、生徒自身は芭蕉の思いに共感できるかできないかを問う。

（２）効果的に課題解決ができる学習集団の創造

ペア音読を多く取り入れ、音読に取り組むようにする。これにより、正しい音読をしようと、互いに支え合う学習集団づくりができると考える。

全体交流の場では、根拠を明らかにして話すことを目指す。教科書の表現を根拠にし、古文に抵抗がある場合には、脚注や写真から考えた根拠も是とする。全体交流の後、教師の意図による小集団（３名程度）で意見交流を行うことで考えを確かなものにし、相互評価できるようにする。さらに、自身のまとめに加筆・修正を加えることで、自分の意見を確かなものにしたい。

（３）学び合いを通して課題を解決する指導・援助のあり方

本時は、小集団交流や全体交流の中で、芭蕉の旅への考え方をもとにして、積極的に自分の意見を話すことができるようにしたい。また、グループの仲間の意見を、自分の意見に取り入れることができるようにしたい。全体交流の場では、話し合いの内容の焦点化を図り、芭蕉の考え方に対して、さまざまなものの見方や考え方があることを捉えさせたい。終末では、積極的に考えを広げようと挙手発言に取り組んでいた生徒の姿や、まとめに加筆・修正できた生徒の姿を価値付け、広げていく。

4 単元指導計画

単元目標

(古今和歌集 仮名序)

○音読を通して、古文の言葉の響き【天地、鬼神、男女、武士…漢語であるが和語で読む】やリズムを味わうことができる。〔伝ア-(ア)〕
(君待つと)

○和歌に込められた昔の人の心情や情景を読み味わうとともに、和歌に歌われている人間や自然などについて自分の考えをもつことができる。
(C-エ)(言文-ア)

(夏草)

○「夏草」を読んで、人間・社会・自然について考え、自分の意見をもち、作品の構成や作者の思いを読み取ることができる。
(C-エ)(言文-ア)

○古典の一節を引用して構成や表現の仕方を考えながらこれからの生き方に関わる文章を書いている。
(言文-アイ)

単元指導計画(全8時間)

次	時	ねらい	学習活動	評価規準
仮名序 君待つと おくのほそ道	1	単元の流れを知り、学習の見通しをもつとともに、仮名序に書かれていることを理解して音読し、和歌に対する興味をもつことができる。	1 和歌についての知識を確認する。 ・五七五七七のリズム、三大和歌集についての確認をする。 2 「仮名序」の範読を聞き、何度も音読をする。 仮名序に書かれている内容を理解し、音読しよう。 3 現代語訳を読んで仮名序の大まかな意味を捉え、交流する。 4 仮名序の内容を考えながら、繰り返し音読する。 《言語活動》 ・原文を繰り返しリズムよく音読する。	【関心・意欲・態度】 「言葉には人を動かす力がある」という仮名序の内容を捉えて、繰り返し音読している。 言葉のもつ力 終末の10分 原文をリズムよく読む。
	2	「万葉集」の和歌を繰り返し読み、自分の気に入った和歌についての鑑賞文を書くことができる。 季節・自然 家族・恋人への思い	1 万葉集について確認し、何度も繰り返し音読する。 2 課題を把握する。 万葉集で気に入った和歌の鑑賞文を書こう。 3 気に入った和歌の一人読みをする。 4 鑑賞文を書く。 5 交流をし、重要事項を確認する。 《言語活動》 ・和歌の特徴に気付き、その良さについて自分の考えを書く。	【読むこと】ウ ・気に入った和歌の特徴や表現の良さ、作者の思いについて理解し、鑑賞文を書いている。 (ノート) 終末の10分 鑑賞文を書く。
	3	「古今・新古今」の和歌を繰り返し読み、自分の気に入った和歌についての鑑賞文を書くことができる。 季節・自然 恋人への思い	1 古今・新古今について確認し、何度も繰り返し音読する。 2 課題を把握する。 古今・新古今で気に入った和歌の鑑賞文を書こう。 3 気に入った和歌の一人読みをする。 4 鑑賞文を書く。 5 交流をし、重要事項の確認をする。 《言語活動》 ・和歌の特徴に気付き、その良さについて自分の考えを書く。	【読むこと】ウ ・気に入った和歌の特徴や表現の良さ、作者の思いについて理解し、鑑賞文を書いている。 (ノート) 終末の10分 鑑賞文を書く。
	4	「おくのほそ道」の歴史的背景を知り、冒頭部分の大まかな内容をつかむことができる。 旅=人生 移り変わるもの	1 松尾芭蕉について知っていることを発表する。 2 おくのほそ道について知り、課題を把握する。 芭蕉にとって旅とはどのようなものだったのだろう。 2 本文を繰り返し読む。 3 一人読みをする。 4 交流する。 5 まとめに加筆・修正する。 《言語活動》旅=人生と捉えた古人の生き方に憧れる作者の思いを読み取る。	【読むこと】イ ・冒頭部分を音読し、現代語訳を参考にして作者の旅への思いをノートにまとめている。 (ノート) 終末の10分 芭蕉の思いをまとめる。

目的をもって読む

目的をもって読む	5	歴史的背景などを想像しながら、作品に描かれた作者の思いを捉えることができる。 人の営みの儚さ 自然の偉大さ	1 平泉について知っていることを発表し、時代背景等を確認する。 2 本文を音読し、作者が涙を流していることを確認する。 芭蕉が涙を落とした理由を読み取ろう。 3 一人読みをする。 4 交流をする。 5 まとめに加筆・修正する。 《言語活動》 ・芭蕉の人生観と人の儚さと自然の偉大さの対比を読み取る。 《着目させたい表現》 ・功名一時の草むら・涙 ・俳句の意味	【読むこと】イ ・平泉の歴史的背景を理解し、作者が涙を落とした理由を考え、ノートにまとめている。（ノート） 終末の10分 涙を落とした理由をまとめる。
	6	歴史的背景などを想像しながら、作品に描かれた作者の思いを捉えることができる。 自然の力を押ししのけ 人の力で残っているもの → 人の力の可能性への期待	1 (2) の前半部分を音読する。 2 後半部分の範読を聞き、繰り返し音読する。 3 課題を把握する。 光堂を見た芭蕉はどのようなことを感じたのだろう。 4 一人読みをする。 5 交流する。 6 まとめに加筆・修正する。 《言語活動》 ・前半部分と比較して、作者の思いを交流し、まとめを書く。 《着目させたい表現》 ・功名一時の草むら ・草むらとなるべきを	【読むこと】イ ・高館での前半と、光堂での後半を比較しながら、作者の思いを読み取り、ノートにまとめている。（ノート） 終末の10分 芭蕉が感じたことをまとめる。
自分の考えの形成	7	作品に描かれた作者の思いを捉え、自分の考えをもつことができる。 【本時】	1 (2) を音読する。 2 課題を把握する。 芭蕉の人生観についてどう思うか、自分の考えをもとう。 3 個人で学習を進める。 4 交流する。 5 まとめに加筆・修正する。 《言語活動》 ・前半部分と比較して、作者の思いを交流する。 《着目させたい表現》 ・共感できるかどうか ・その理由	【読むこと】エ ・作者の思いを読み取り、自分の考えをノートにまとめている。（ノート） 終末の10分 自分の考えをまとめる。
	8	今の自分に送るメッセージの内容にふさわしい古文の一節をこれまで学んだ作品から選ぶことができる。	1 今までの古典の学習で学んだことの確認をする。 (仮名序) ...言葉のもつ力 (君待つと) ...季節・自然・家族・恋人への思い (夏草) ...人生＝旅、自然の偉大さと人の儚さ、可能性 心に残った古典の一節を選ぶ。 2 今までの学習を振り返り、これから生きていくうえで大切にしたい自分の思いと重ね合わせて古文の一節を選ぶ。 《言語活動》 今までの学習と自分のこれからの生き方を重ね合わせて、選ぶ。	【読むこと】エ ・これからの自分の生活の指針となる思いを後押しする古文の一節を引用している。（プリント） 終末の10分 自分の思いと重なる一節を選ぶ
	9	古文の一節を引用しながら、構成や表現を工夫し自分へのメッセージを書くことができる。	1 前時の確認をする。 2 課題を把握する。 古文の一節を引用し、これからの自分へのメッセージを書こう。 3 メッセージの書き方の確認をする。 ・最初に選んだ古文の一節を書く。 ・自分の体験を書く。 ・古文の一節から考えたことや思ったことなどを書く。 ・自分へのメッセージを書く。（400字程度） 4 自己評価をする。 評価の観点 ・書き方の型に準じているか。 ・自分への激励の文章となっているか。	【読むこと】エ ・これからの自分の生活の指針となる思いを後押しする古文の一節を引用し、メッセージを書いている。 終末の10分 自分へのメッセージを書く。

5 本時のねらい

芭蕉が、平泉を見て人間の儚さに涙した前半部分に対し、後半部分では、人の営みが残し続けた人間の可能性や希望を見出したことに気づき、芭蕉のものの見方に対する自分の意見をまとめることができる。（読む—工）

6 本時の展開（本時の位置 7 / 9）

過程	学 習 活 動	【研究 2】教師の働きかけ
導入	< 前時の学習を振り返る > - 人間の営みの儚さと、自然の営みの偉大さに気づき、涙を流して悲しんでいたことが分かった。 - 芭蕉は、栄華を誇っても何にも残らないという無常観を抱いていた。 - 後半部分は、偉大な自然の力を押しのけ、人の営みによって光堂が残されていることを知り、人間の力への可能性を感じていた。 < 課題把握 > 芭蕉の考え方について、自分の意見をまとめよう。	- 芭蕉の旅に対する考え方について確認する。 - 芭蕉の考え方について、自分の意見をもつ時間であることを方向付ける。
深め	< 個人追究 > - 芭蕉の考え方を明らかにする。 （人間の営みの儚さ・自然の偉大さ・人生＝旅） - 芭蕉の考え方に対して、共感できるか、できないか、自分の意見をもつ。 < 全体交流 > - わたしは、芭蕉の考え方に共感できる。人間の力は、自然の力には勝てないと思うから。 - わたしは、芭蕉の考え方に共感できない。光堂が残っているのも、人間が守っていたから残っているのであって、決してすべてのものが変化してしまうとは限らないから。	条件付け 1. 芭蕉のものの見方について 2. 共感できるかどうか、立場をはっきりさせる 3. 理由を挙げている この3点を入れ込み、考えをもつことができる。
終末 10分	< 小集団交流を通してまとめを見直し、加筆・修正する > - 芭蕉のものの見方について - 共感できるか・できないかについて立場をはっきりさせている - 古文や生活体験の中から理由を挙げている この3点について、相互評価できるようにする。 わたしは、芭蕉の無常観に共感できる。どんなに強いスポーツ選手でも、一位であり続けることは難しい。体力的なことや、次々と若手選手が育ってくることによって、その時に、一番強い選手は変わっていくと思うから。 < 評価 > - 積極的に考えを広げようと挙手発言に取り組んでいた生徒や、まとめに加筆・修正できた生徒の姿を価値付ける。	- 書くことが苦手・何を書いてよいか分からない生徒への手立てとして、立場をはっきりさせるだけでなく、その理由を古文や生活体験の中から書けるとよいことを確認する。 - 条件に照らして、情報収集を行なう。 【研究 1】 終末の 10 分 - 仲間の意見を聞き、そこから学んだことを踏まえて、まとめを見直す時間を設ける。 < 評価規準 > 芭蕉のものの見方に対する自分の考えをまとめることができる。 < 評価場面 > 挙手発言・まとめの文章